



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島司教区
電話099(226)5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行人 末吉卓也
1部60円年間千共1100円

教会のこよみ	
3日	年間第二十七主日
10日	年間第二十八主日
17日	年間第二十九主日
24日	聖ルカ福音記者 年間第三十主日
28日	世界宣教の日(献金)
31日	聖シモン・聖ユダ使徒 年間第三十一主日

祈りと犠牲で教区活動を支える

十字架の使徒会発足二十五周年

身体に重荷を負う人々が、祈りと犠牲をささげることによって教区の宣教活動に参加するため設立された十字架の使徒会が、九月十四日(十字架称賛)、発足二十五周年を迎えた。

感謝とこれからの活動への祝福を願うミサがささげられた。

キリストの十字架にこそ人間の救いがある。十字架は、復活への希望に満ちた喜びの道であるという信仰を生かすことが会の精神である。会員は原則として、長期療養者(在宅の高齢者や寝たきりの人を含む)や身体に障害のある人、また、その看護者である。

教区民の奉獻新たに

9月15日カテドラル献堂記念日

今年九月十四日(十字架称賛の祝日)、十字架の使徒会が正式に発足して二十五周年になりました。病気や障害、そして高齢などの十字架を背負って生きる人々と、彼らの介護のために尽くしている信者たちが、健康者と同じように教会活動に参加できない代わりに、日々担う十字架の神秘を生きながら、教区の宣教活動に祈りをもって参加する、というのが十字架の使徒会の目的です。

①主日のミサを大切に、可能な限りミサにあずかる。②会員相互の意志の疎通を図る、などである。③について、会誌として

教区の日(カテドラル献堂記念日)の九月十五日(水)、鹿兒島カテドラル・ザビエル記念聖堂で献堂記念ミサがささげられた。鹿兒島の現司教座教会

が献堂されたのは、一九九九年九月十五日。聖フランシスコ・ザビエル渡来四百五十周年の記念事業として、老朽化した旧聖堂に代わって鹿兒島県民への宣教

②聖書を読んで毎日黙想す

③主日のミサを大切に

④について、会誌として

申請理由は、小宿教会

「小径」があるが、現在は休止状態である。今後は、少なくとも年に一回発行したい、と末吉師は話している。会員は、今年二月現在、八十五人。

入会は、所定の入会申込書により、所属小教区の主任司教を通して会の事務所が置かれている教区本部事務局に申し込む。

十字架の神秘を生きる

十字架の使徒会の発足25周年にあたり

鹿兒島司教 糸永真一

今年九月十四日(十字架称賛の祝日)、十字架の使徒会が正式に発足して二十五周年になりました。病気や障害、そして高齢などの十字架を背負って生きる人々と、彼らの介護のために尽くしている信者たちが、健康者と

同じように教会活動に参加できない代わりに、日々担う十字架の神秘を生きながら、教区の宣教活動に祈りをもって参加する、というのが十字架の使徒会の目的です。

をもって教区の活動をしつかりと支え、同時に、主とともに苦しみを捧げて教会の使命に加する生きがいと喜びを体験し

ここにあらためてこれらの会員たちに心から感謝を捧げます。教区としては、司教評議会の提言もあり、十字架の使徒会の

(二〇〇四年九月十四日)

小宿小教区の設立

糸永司教は、十月一日付で小宿(こしゆく)小教区を設立し、従来の知名瀬小教区(主任司教末村敏彦師)の管轄地域を引き継がせるとともに、末村師を主任司教に任命した。そして、小宿教会聖堂が小教区教会に指定され、主任司教の住居も小宿教会に移ることになった。これは、今年八月に末村師から小教区名称変更申請が出され、その妥当性が認められたことによる。

申請理由は、小宿教会

と。また、地域人口も七千二百人で、福音宣教においても多くの可能性を含んでいることである(四面、司教文書参照)。

宣教者に力を与える聖体

―世界宣教の日教皇メッセージ―(要旨)

回勅「救い主の使命」の中で指摘したように、救い主の使命は、その成就からはほど遠い状態にある。今日、人類が直面している社会的・宗教的挑戦は、宣教への熱意を再び燃え立たせるよう信者たちに呼びかけている。祭壇のまわりに

集められることによってこそ、教会は、自己の起源と宣教への使命をよりよく理解することができる。今年「世界宣教の日」のテーマとして取り上げた「聖体と宣教」は、切り離すことの出来ない二つのものである。無原罪の宿りの教義が定められてから五十年になる今年、マリアのまなざしで聖体を観想しよう。

幾世紀にもわたって旅を続けている神の民である教会は、毎日、祭壇上で新たないけにえをささげながら、キリストの栄光に輝く再臨を待ち望んでいる。日々の霊的な旅の途上で避けがたい困難に出会い、十字架の神秘を経験するキリスト者を、聖霊は目には見えなくとも力強く導く。聖体は、悪や罪と闘う人々の慰めであり、最終的な勝利の保証である。

基地としてささげられた。五回目となった今年の献堂記念ミサには、平日の午後二時という時間にもかかわらず百人あまりの信者が参列し、司教を囲んでミサをささげ教区民の奉獻を新たにした。

ミサ中説教した糸永司教は、大勢の人で立すい余地もないほど賑わった献

「歴史」上、最初の「聖櫃」(聖体)五五番であるマリヤは、道・真理・いのちであるキリストをわたしたちに示し、わたしたちに与える。

教区における意義を確認して、これからも十字架の使徒会を教区の重要な運動として継続していく方針です。神父様がたをはじめ、教区信者の皆さんの理解と協力を得て新たな会員を募り、こうして、十字架を背負う信者たちが、日々、信仰とその使命に生きる喜びを手にしてほしいと願っています。

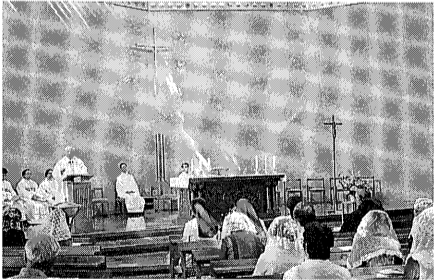
会員ならびにご協力くださる皆さんの上に、十字架の主の祝福が豊かにありますように!

「聖体」に生かされた女性」であるマリヤの取次ぎを願いながら皆さんに祝福があるように。

教区ではこのカテドラル献堂記念日を今後も「教区の日」として、信者にとって大きな記念日として祝うことにしている。

「聖体」に生かされた女性」であるマリヤの取次ぎを願いながら皆さんに祝福があるように。

二〇〇四年四月十九日
バチカンにて
ヨハネ・パウロ二世



二〇〇四年四月十九日
バチカンにて
ヨハネ・パウロ二世

二〇〇四年四月十九日
バチカンにて
ヨハネ・パウロ二世

修道会だより

▼聖心の布教姉妹会
九月三十日付けで小宿修道院を閉鎖した。

混沌から世界を問う

聖書の人間理解 (2)

竹山 昭

聖書の冒頭には性格の異なる二つの創造物語が記されている。

第一の創造物語は1-4前半で、この部分は専門家の間で「祭司伝承」(または、祭司文書)と呼ばれる、いわゆるバビロン捕囚期のものである。

第二のものは2-4後半、25で、イスラエルの部族連合が崩壊し、王政に移行した時期(前十一-十世紀)に属するヤブエ伝承を中心とする。時代的にも思想的にも叙述の仕方も異なるこの二つの物語は、しかし、その人間理解において、互いに補い合いながらも、基本的な点では違わない。それを考察する前に、この叙述、ことに1-1-1-4の特徴に関して若干のことを述べておこう。

「混沌」からの告白
先に「創造物語」と表現したが、それはこの話が歴史を語るものでもなく、いわゆる科学的な事実を述べるものでもないことを示すためである。だからといって作り話だということではない。ここでは「世界がどのようにできたのか」を語るのではなく、むしろ、「世界と人間の存在の確かさはどこにあるのか」という、当時の根源的な問いに答えるようとしている。イスラエルの捕囚期は、国は滅び、神殿を失い、異郷の地に囚われて過す、根本か

この意図的な書き方から、書き手の意図を汲み取ることが出来る。

一つには「神の言葉による創造」である。すべてのものは神の命令だけによって創造される。「バーラ」(創造する)というヘブライ語は、聖書ではすべて神による創造の場合だけに用いられて人間のわざには用いられない。ヘブライ語では「ダバル」という語は「言葉」を意味すると同時に「できごと」という意味をもつ。ことに神の場合「語る」ことは「行う」事と同じであり、また神の行為は「言葉」でもある。

もう一つの意味は、「秩序」ということである。神はただ世界を創ったというのではなく、「秩序ある世界を創られた」ということ

になる。因に第一日目からの創造のわざを一つ一つ書きだしてみれば、神は、いわば「容れ物」を先に創り、その後そこに置く(生きる)ものを創られたことが明瞭になる。

「極めて良い」世界
それだけではない。「神は見て、良しとされた」との繰り返しが、神がこの世界を「良いもの」として創られたとの考えを読み取ることが出来る。

こうしてすべてが整った後に神は人間を創造するのである。それはこの創造物語が、明らかに人間の創造を頂点としていることを示す。それは人間の場合にだけいわば設計図を描くように「われわれに：似せて創ろう」と述べられていることから推測できる。また人間が加わった後の世界についてだけ「見よ、それは極めて良かった」と最上級形で述べられることから分る。

「極めて良い」世界
それだけではない。「神は見て、良しとされた」との繰り返しが、神がこの世界を「良いもの」として創られたとの考えを読み取ることが出来る。

こうしてすべてが整った後に神は人間を創造するのである。それはこの創造物語が、明らかに人間の創造を頂点としていることを示す。それは人間の場合にだけいわば設計図を描くように「われわれに：似せて創ろう」と述べられていることから推測できる。また人間が加わった後の世界についてだけ「見よ、それは極めて良かった」と最上級形で述べられることから分る。

「極めて良い」世界
それだけではない。「神は見て、良しとされた」との繰り返しが、神がこの世界を「良いもの」として創られたとの考えを読み取ることが出来る。

こうしてすべてが整った後に神は人間を創造するのである。それはこの創造物語が、明らかに人間の創造を頂点としていることを示す。それは人間の場合にだけいわば設計図を描くように「われわれに：似せて創ろう」と述べられていることから推測できる。また人間が加わった後の世界についてだけ「見よ、それは極めて良かった」と最上級形で述べられることから分る。

「極めて良い」世界
それだけではない。「神は見て、良しとされた」との繰り返しが、神がこの世界を「良いもの」として創られたとの考えを読み取ることが出来る。

こうしてすべてが整った後に神は人間を創造するのである。それはこの創造物語が、明らかに人間の創造を頂点としていることを示す。それは人間の場合にだけいわば設計図を描くように「われわれに：似せて創ろう」と述べられていることから推測できる。また人間が加わった後の世界についてだけ「見よ、それは極めて良かった」と最上級形で述べられることから分る。

「極めて良い」世界
それだけではない。「神は見て、良しとされた」との繰り返しが、神がこの世界を「良いもの」として創られたとの考えを読み取ることが出来る。

こうしてすべてが整った後に神は人間を創造するのである。それはこの創造物語が、明らかに人間の創造を頂点としていることを示す。それは人間の場合にだけいわば設計図を描くように「われわれに：似せて創ろう」と述べられていることから推測できる。また人間が加わった後の世界についてだけ「見よ、それは極めて良かった」と最上級形で述べられることから分る。

「極めて良い」世界
それだけではない。「神は見て、良しとされた」との繰り返しが、神がこの世界を「良いもの」として創られたとの考えを読み取ることが出来る。

こうしてすべてが整った後に神は人間を創造するのである。それはこの創造物語が、明らかに人間の創造を頂点としていることを示す。それは人間の場合にだけいわば設計図を描くように「われわれに：似せて創ろう」と述べられていることから推測できる。また人間が加わった後の世界についてだけ「見よ、それは極めて良かった」と最上級形で述べられることから分る。

世界にはまだキリストを知らない人がたくさんいます。日本でもわたくしたちはキリストを知らない人たちに囲まれて生きています。キリストを伝えることである宣教は、神の子供、キリストの弟子となつたわたしたち皆に与えられていて使命です。「世界宣教の日」は、すべての人に宣教の心を呼び起こさせること、世界の福音化のために、

10月24日は世界宣教の日

霊的援助をはじめ、宣教師たちの交流を各国の教会間で推進することを目的としています。この日の献金は、各国からローマ教皇庁に集められ、世界中の宣教地に援助金として送られます。日本の教会は、いまだに海外から多くの援助を受けていますが、経済的に恵まれない国々の宣教活動を成長していきたいものです。(二面参照)

カテキスタ研修会

テーマ 「中高生の信仰教育—どんな中高生を育てたいのか—」
日時 10月24日(日) 午後一時半～午後四時半
内容 講演、分かち合い、ミサ(司教司式)
場所 カテドラル
対象 主任司祭、中高生の保護者、中高生教師、中高生担当リーダー、関心のある方

今月の暦

(10月)

- 4日(月) サンタマリア神父叙階記念日(一九七〇年)
- 5日(火) デクルス神父命日(一九八〇年)
- 6日(水) 本部会議・教区本部・10時
- 10日(日) 阿久根教会聖信式・9時
- 古仁屋教会献堂記念日(一九六七年)
- 西阿室教会献堂記念日(一九六七年)
- 福崎英雄神父叙階記念日(一九八九年)
- 13日(水) カタリナ永徳婦天(二六四九年)
- 18日(月) 教区司祭会・司教館・16時
- 19日(火) コンペントゥス・教区本部・10時
- 24日(日) カテキスタ研修会・カテドラル・13時30分
- 大水如安神父命日(一九九四年)
- 25日(月) 東 研神父叙階記念日(一九六四年)
- 27日(水) 聖ジェラルド(大松正弘神父)
- 29日(金) 山間教会献堂記念日(一九六三年)
- 31日(日) ミタマヤ神父命日(一九八四年)
- 11月
- 1日(月) 芦花部教会献堂記念日(一九二九年)
- 白百合の寮創設(一九五九年)
- 2日(火) 教区評議会ミサと交流会・カテドラル・18時
- 3日(水) 教区評議会
- 14日(日) 川内殉教祭

【十字架の使徒会祈りの意向】 司祭の召命

参加者募集!

◎ 召命の集い

日時 11月3日(水) 9時半～15時
場所 福岡サン・スルピス大神学院
内容 召命祈願ミサ、ミニ運動会、講話
◎ 小神学院一日体験入学
日時 11月13日(土)～14日(日)
場所 長崎カトリック神学院
対象 小学五・六年生と中学生

※召命の集い、体験入学についての質問や参加申し込みは、次の教区召命担当司祭まで
木村師(小宿)、泉師(鴨池)、末吉師(ザビエル)

<KABAYAN SEKSIYON>

"ANG SAKRAMENTO NG EUKARISTIA"

Ang pangatlong sakramento na pag-uusapan natin ay ang tungkol sa Sakramento ng Eukaristia. Sina-bi ni Jesus: "Ako siyang tinapay na buhay, na puma-naog mula sa langit; kung may kakain ng tinapay na ito, mabubuhay siya magpakailanman. may buhay magpakailanman ang ngumunguya ng aking laman at umiinom ng aking dugo. at namamalagi sa akin at ako sa kanya." (Juan 6:51, 54, 56). Dahil sa Eukaristia, para sa atin na nanampalataya, ang salita ni Jesus ay nagbibigay buhay at lakas.

Ang Eukaristia ay ang pinaka-puso at tugatog ng pamumuhay ng simbahan, dahil diyan nakikiisa si Cristo sa kanyang simbahan at sa lahat ng kasapi, na kalakip ng kanyang sakripisyo ng papuri at pasasalamat, na inalay niya isang beses lang sa krus para sa kanyang Ama; at sa pamamagitan ng kanyang paghihirap, ay ibinuhos ang biyaya ng kaligtasan sa kanyang Katawan na walang iba ang Simbahan. Ang pagdiriwang ng Eukaristia ay palagi ng kasama: ang pagpapahayag ng Salita ng Diyos; pasasalamat sa Diyos Ama ng lahat ng biyaya na galing sa kanya, higit sa lahat sa kanyang Anak; ang pagbabasbas ng tinapay at alak; at saka ang pakikiisa sa bangkete sa pagtanggap ng katawan at dugo ng Panginoon. Ang mga elementong ito ay nag-papakita ng isang gawa ng pagsamba. Ang eukaristia ay ang pag-alaala ng Paskuwa ni Cristo, na iyan ang gawa ng kaligtasan na katuparan ng buhay, kamatayan at muling pagkabuhay ni Cristo, akda na gawa sa presensiya ng liturhiya. Sa pagtanggap natin kay Cristo sa Eukaristia, tayo ay binibigyan ng buhay, subalit kung hindi natin siya tatanggapin, wala tayong buhay at sigla sa buhay espiritual.

Kaya kung maari mga Kababayan, tanggapin natin palagi si Cristo sa Eukaristia [sa santa misa]. Si Cristo mismo ang nagsabi: "Ito ang aking katawan. ito ang aking dugo na inihandog para sa inyo." Mabago sana ang ating pananaw sa buhay. Hanggang sa muli.

Fr. Dino A. Orolfo

tel/fax 09972-2-0423 keitai: 090-2085-1094

教区目標への取り組みは?

信仰養成委員会がアンケート調査

信仰要請委員会(委員長・糸永司教)は、七月二十九日付けで、各小教区を対象にアンケートを実施した。これは鹿兒島教区が今年掲げている教区目標「教会の教えを学び直そう」を受けて、各小教区がどのような活動をしているのか改めて検証し、今後の要理教育の一層の充実を促すためのもの。

アンケートの実施数は二十九で、回答数は十七(始良、指宿、ザビエル、志布志、種子島、垂水、吉野、阿久根、大口、川内、大笠利、古仁屋、瀬留、知名瀬、古田町、名瀬、和泊)。アンケートによると、十二の教会で勉強会や講座を開いており、十人以下の小グループで行われている所が多く、主日のミサ後や、週ごとに定期的に行われている。また、「カトリック教会の教え」や「カトリックの教え」などがよくテキストに使われている。昨年出版された「カトリック教

会の教え」は教区内で三百冊近く普及している。アンケートに添えられた様々な意見からは、それぞれの小教区での司祭の苦勞がうかがい知れ、勉強会開催の要領などについての意見交換なども望まれている。

また、いくつかの教会では様々な都合により勉強会が行われず、「行われている所でも継続し発展させていく事に苦勞している。しかし、和泊教会からは「学ぶ事を喜んでいられる」との報告もあり、各小教区で根気強くチャレンジしているようである。今後の「教会の教え」の学びに期待したい。

各教会の勉強会等の様子は次の通り。始良―昨年六月から、毎月一回、一時間半ほど、主任司祭の指導の下で、「カトリック教会の教え」の勉強会を、二十人ほどで行っている。参加者の数が今年に入って減り、

学習の形式	勉強会・講座	12
	班集会で	1
	ミサ後に朗読	1
実施頻度	主日のミサ後	5
	週ごとに	4
	月ごとに	3
	その他	3
使用テキスト	カトリック教会の教え	6
	カトリックの教え	4
	聖書・その他	4
参加人数	1~10人	5
	10人以上	3
	信徒全員	1
	その他	1

現在は十人ほど。成果については不明。

指宿―日曜のミサ後、司祭の指導の下で、少しづつ勉強している。ドミニコ会研究所編「カトリックの教え」(カトリック教会のカテキズムをもとに刊行された)を教会で二十冊ほど取り寄せ、個人でも買ってもらい、参考にしながら一緒に学んでいる。成果としては「カトリック教会の教え」の本の購入者が増えてきた。

ザビエル―昨年六月から毎月一回土曜日の十四時から「カトリック教会の教え」の学習会をしている。参加人数は二十〜三十人ほど。

国分教会を 司教が訪問

八月二十二日(日)糸永司教は国分教会を訪問し、国原神父と信者たちとミサをささげた。またミサ後には茶話会が開かれ、信者たちが教会の現状を報告する



ど。第一部は竹山神父の夏期集中講座への参加呼びかけ、第二・四部は末吉神父担当、第三部は永山神父担当。信徒の理解を助けるために基本的な教えのレジュメを毎回作成している。壮年の参加が五〜六人にとどまっている。

志布志―昨年、主日のミサ後、四十分ほど、「カトリック教会の教え」より先に出版されたカテキジスを解説している。

種子島―今年一月ごろから司牧評議会で「カトリック教会の教え」について話し、勉強会を提案したが、参加者がなく、勉強会は実施されていない。

垂水―四月に入り「教会の教え」の勉強会を始めようと呼びかけたが実行に移されず、最近になって「九月から」となったが、まだ実行されていない。

など和やかな語らいのひとときが持たれた。主任司祭の国原神父は「司教が教区の中核です。今は司教さまがここにいるので、今日は国分教会が教区の中核ですよ」と嬉しそうに話していた。また、国分教会では九月十二日(日)のミサで赤ちゃん(上永吉まさき君)の洗礼式が行われた。

典礼研修会 ザビエル教会

九月十九日(日)、ザビエル教会で典礼研修会が開かれた。講師はサンスルピス大

吉野―毎週木曜日に、朝・夜二回の「聖書講座」を開講している。受講者は合計で三十人近くの信徒(何人かは未信者)。「カトリック教会の教え」は自習用として、信仰の見直しとして利用するように指導している。

阿久根―二人一組で二回、毎週一回、実施している。

大口―毎週木曜日、十時〜十二時(昼の部は月二回)と十九時半〜二十一時、聖書とカトリックの教えを学び、祈りで勉強の裏りを願っている。昼の部は八〜十人、夜の部は四〜五人参加。

川内―月に二回(第一と第三水曜日)、「教会の教え」の勉強会を、主任司祭の指導の下で、約六〜八人のグループで続けている。成果については簡単に言え

受洗者に喜ぶ マリア山荘

九月八日(水)マリア山荘で洗礼式があった。受洗したのは二十九歳の男性で、四か月の間要理を学んでの喜びの日となった。彼を受洗にまで導いたの

は、近く結婚するベトナム人の恋人。二人はニュージランド留学中に会って、愛を育ててきた。マリア山荘の松森神父は同山荘に赴任して以来(一九九七年四月赴任)、三人目の受洗者に喜び一杯である。

もの)を二項ずつ全員で読み上げている。毎週金曜日、二十時〜二十一時、テキストに「カトリックの教え」を用いた信仰養成講座をしている。五〜八人参加で、延べ四十人ほど受講している。

ないが、参加者の話によれば、以前していた聖書研究会のほうがよかつたらしく、この本はあまりに神学的で難しいとのこと。(本当の問題は指導者である私にあると思う。)

瀬留―説教の中で「カトリック教会のカテキズム」も併用しながら、利用を促す。

大笠利―数回、ミサ後、約二十分、研究を信徒全員でしたが、現時点では続け

で、十二月十六日まで毎週木曜日、開かれる。午前の部は午前十時から十一時半まで、午後の部は夜七時半から九時まで。

年十月から始められ、これまでに多くの受洗者を誕生させている。

短信

青年キャンプ

八月二十九日に一泊二日の九州青年キャンプが福岡の行橋教会で行われた。九州内の青年たちが連合して企画しているもので、今年度の企画は福岡教区の青年が担当し、教区を超えて約七十人の青年が集まり、鹿兒島教区からも七名の青年が参加した。

台風十六号が接近する不安定な天候の中、グループに分かれて分ち合いをし、そこで得たものを共同祈願としてミサの中で捧げ、共に祈った。また、食事や交流会を通してお互いの親睦を深め、青年らしく元気な伴奏でのミサでは同じ信仰の仲間として力づけられた。福岡の元気な青年たちを見て、鹿兒島の青年にとっても今後の活動の参考になった。

ザビエル市民講座

九月九日(木)からカテドラルで、ザビエル市民講座が始まった。この日スタートしたのは永山弘幸神父が担当する「イエス・キリストの教え」(全十二回)

また九月十四日(火)からはシスター溝辺が担当する「聖書からのメッセージ」(全十回・毎週火曜日午後七時半〜九時)も始められた。同市民講座は一九八七

八月二十二日(日)、大熊教会出身の平孝之神父(コンベンツアル会)の厳父・平満夫さん(七十歳)がガンのため入院先の県立大島病院で帰天した。

モク、さようなら！



れは人気者だった雄犬のモクが死んでしまったから。聖木曜日に材木店からもらったのに因んでつけられたその名前。郡山神父がアーメンと言うまでは食事も我慢できたという。

知名瀬教会主任司祭

木村敏彦神父 様

小教区教会を知名瀬教会から小宿小教区に移し、小教区名も知名瀬小教区から小宿小教区に変更したいとの申請を検討した結果、その妥当性が認められるので、来る十月一日をもって小宿小教区を新たに設立して、従来の知名瀬小教区の管轄する地域を引き継がせるとともに、あなたを初代主任司祭に任命します。また、小宿教会聖堂を小教区教会に指定し、主任司祭の住居を小宿教会に移すよう命じます。

小宿小教区の設立について

この機会に、小宿小教区

の管轄する地域、及び現状を次のとおり確認します。

- ①管轄地域(名瀬市浜里町、平松町、小宿、里、朝仁、朝仁新町、朝仁町、
- ②所属する巡回教会(知名瀬【信者数】52、根瀬部7、大和6、大柵51、戸円18)
- ③小教区全信者数(二五五)
- ④小宿教会信者数(二二七)
- ⑤小教区信者数の六七

根瀬部、知名瀬、及び大和村全域

②管轄地域の総人口(九五九七)

③小教区全信者数(二五五)

④小宿教会信者数(二二七)

⑤小教区信者数の六七

これを機に、小宿小教区の全共同体が、主任司祭を中心としてあらためて一致結束し、鹿兒島教区の新きた細胞として、また、地域の福音宣教センターとして、その使命に邁進することを期待し、祝福をおくり

新小教区の皆さんの上に、主なる神からの恵みと平和がありますように！

鹿兒島司教館にて
二〇〇四年九月二十一日

鹿兒島司教 糸永真一
教区書記 小川靖忠

ザビエルさまの散歩道

ザビエル様に続いて主の証人に

ザビエル様が極東の日本に宣教しようとした時は大変な勇気がいったと思いますが、彼はそのパワーをローマでイグナチオ・ロヨラと三人で祈った時、聖霊を呼び求め、聖霊の充たしを十分に受けたためだろうと思えます。

かわらず日本各地に宣教なさったという事は人間業では到底できなかつたと思えます。また日本が第二時世界大戦に突入した十二月八日が聖母マリア様の無原罪の祝日で、終戦が八月十五日の聖母の被昇天というの

大島での研修会

今年の夏、奄美で信徒研修会があった。その狙いはどのようになら信徒がいきいきと活動できるかというものであった。

この研修会で眼が開かされる思いがしたのは、中

日本は聖霊の浄配であるマリヤ様が特に目をかけておられる国だと思えます。ザビエル様が被昇天の日日本に到着したと言うのも、聖母のとりなしで主がお恵み下さったと思えます。私たちもザビエル様に続いて主の証し人になりましょう。(谷山・久保俊弘)

このコラムでも、皆さまのザビエル神父様への思いや様々な声をお待ちしています。今後もご協力をお願い致します。

ちてきそ うな満天の星空を見ながら砂浜で寝ました。(テント張ったのに！)

声

魅力ある大島

数年、大学の夏休みに、奄美大島に行きました。そこでひよんな事から、地元の人たちのキャンプに参加させてもらいました。人が歩いて入れないビーチに船で渡り、食料を運びこみ、テントを張ってバーベキューをしました。

「声」の欄では原稿を募集しています。原稿は六百字以内。寄稿される方は、住所、氏名、年齢、所属教会を記入の上、毎月十日までに教区本部までお送り下さい。

ただで、初代教会の姿を目指した第二バチカン公会議だったはずなのに、まだまだその精神とその根底にあるものを身につけていない。今はそのギャップの中で

匿名希望の方はその旨お伝え下さい。

文芸

短歌 (思川短歌会作品)

古仁屋 豊島忠司

リハビリに通ふ病院の小ベット身を臥す度に安らぎ覚ゆ

人前で胸をはだけて乳飲ます女等絶えて戦後遙けし

(評) 推敲された佳作である。

鹿兒島 前田儀子

風も闇も地を這ひてくる門の辺に益のしるしの迎え火赤し

逝きてより半世紀終れど面差しの骨組み若き夫は鮮らか

(評) 「迎え火赤し」がよい。

大口 森 博伸

去りてなをお告げの祈りミサのうた忘れぬ君のうわさ聞く日よ

夜まつりの浴衣の乙女の下駄の音音待草の花あかりの道

(評) 追憶の結句がよい。

出水 遠竹睦郎

ザビエルの上陸の地の祇園之州を友と歩きぬ往時偲びて

道端の無人売場の菊の花買ひ来て父母の御霊に捧ぐ

(評) 深遠な祈りの佳作

阿久根 中津濱フサエ

清々しミサのめぐみにあやかりて日々の幸せ何よりの宝

ちぎれ雲動かず見えて光冴ゆる月も明るいしばしの空かな

(評) 素朴な表現が詩を大きくした。

名瀬 林 明子

愛情をそそいでくれるおとうさんつみぶかい目をぬいてくださる

ここへきてなぐさめているイエスキリストまだいじょうぶだいたいじょうぶだと

(評) 真の愛を詠み得た歌。

鹿兒島 春山マリ子

清らかな優しいマリア何時の日も

私の胸に楽しき調べ

主と共に導かれゆく信仰に永久の祈りと愛の支えと

(評) 信じ得ることが信仰であると詠んだ佳作。

阿久根 眞清水 藍

わが言葉之しくつたなきを憂いつつ伝えんとする永遠の幸せ

五年の日々の記録の終章に「永遠の安息を」と記して閉じぬ

(評) 人の世を静かに詠んだ歌

鹿兒島 田平新太郎

すててこをはく齡なり夏座敷妻と寝転び島唄聴かん

台風去りし朝は婿も娘も孫も犬つれだちて帰るゆきたり

(評) 「風の波」が佳作とした。

鹿兒島 龍門司真人

生き甲斐に聴きつつ眼をさだめ川緑蔭に鳴いて泣かせる蟬時雨

満月や太鼓のとよみ高ましし

名瀬 松畑義弘

集いのお知らせ

スピリチュアルケア特別来日講演会

日時：11月9日(火) 18時30分
かごしま県民交流センター中ホール
テーマ：「生きる意味」
うつ原因 うつからの解放
医療とスピリチュアリティ
講演者：W・フット & A・フット夫妻
主催/臨床パストラルケア教育研修センター
連絡 Ⅲ099-282-2926 (奥村)・Ⅲ0993-22-6542 (福沢)

若者の集い「星の巡礼〜キリストを目指して」

日時：10月24日(日) 13時30分~17時
岡山教会(広島教区) 溝部司教出席のもとワールドユースデイ「ケルン大会」について 担当：久保直樹(教区本部)